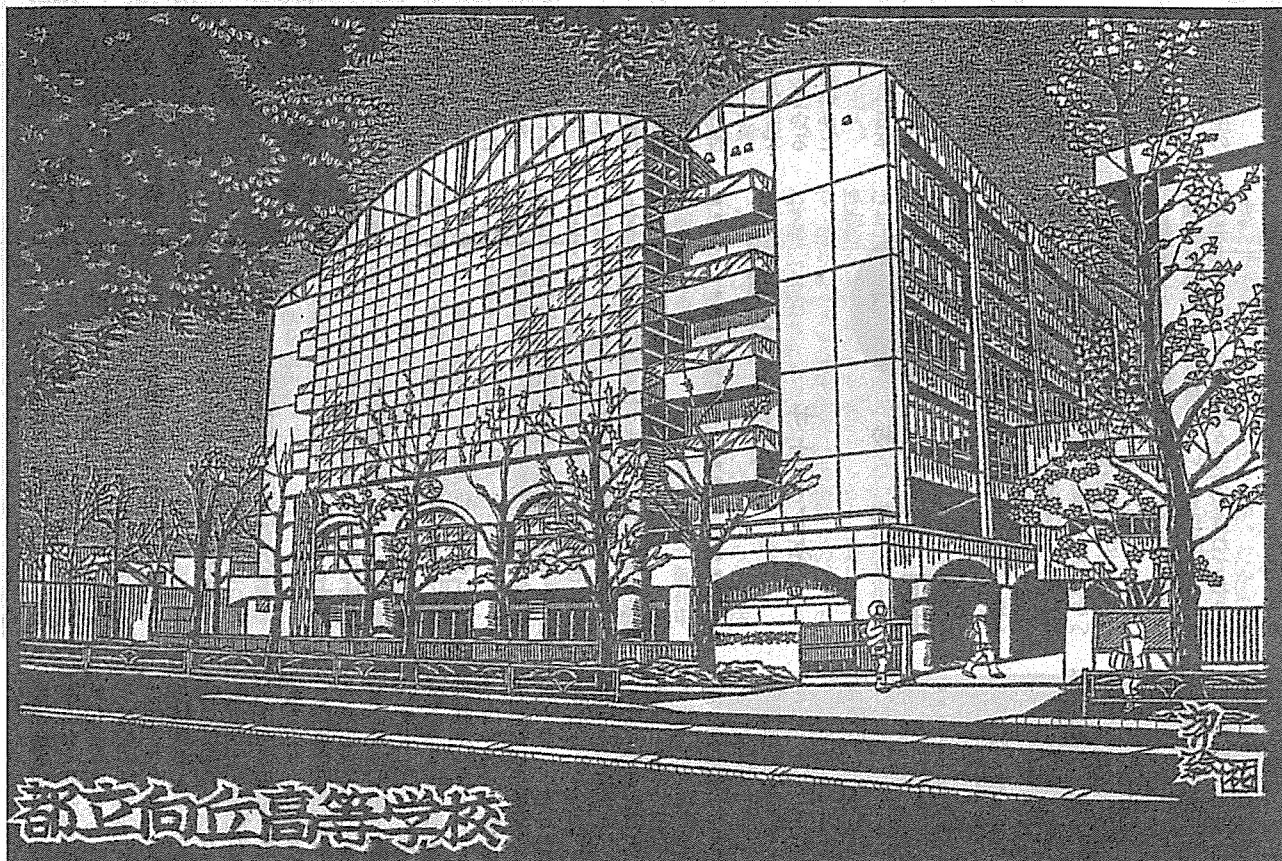


発行責任者 東京都立向丘高等学校同窓会
 会長 小川 力 洋
 編集 会報委員会
 事務局 〒113-0023
 東京都文京区向丘1-11-18 向丘高校内
 TEL 3811-2022
 FAX 3812-4055



都立向丘高等学校

切り絵作家 稲葉祐吉 作

同窓会活動のご案内

■14年4月21日 (日)

総会 受付12:30 開始13:00~13:30
講演会 13:30~14:30
 講師 吉松 純氏 (S52卒 米国在住)
 演題 我が歩んだ道
 "出る杭もうたれず・雑種文化に生きる"
演奏会 14:30~15:30
 出演 東京マンドリン合奏団
 指揮 明治大学マンドリン倶楽部OB
 赤岩 大輔 [古賀メロデー集・叙情曲集]
 対象 会員、在校生、保護者、一般
 料金 入場無料 (お問い合わせ下さい)
懇親会 15:30~17:30
 アトラクション (フォークソング演奏・抽選会) あり
 参加費 ¥3,000 (但し平成13・14年度卒業生は¥1,500)
申込方法 4月15日 (月) までに同封の用紙にてお振込下さい。
場所 母校6階多目的教室 (ホール)

■14年9月29日 (日)

学校訪問会 (ホームカミング会)

講演会 受付15:30 開始16:00~17:00
 講師 朝日新聞横浜支局長
 粕谷 卓志 (S45卒)
 演題 "ニュースな話 取材余話"
 入場無料 (お問い合わせ下さい)
懇談会 17:00~18:30 対象 会員・客員
 会費 ¥2,000 (要予約、当日払可)
 軽食の用意をいたします。
場所 母校B棟4階視聴覚教室

 ※母校向陵祭 (文化祭) が9月28、29日 (Pm 3:00終了) 開催されます。現役の活動振りもご参観下さい。
連絡所 小川力洋
 〒114-0012 東京都北区田端新町1-27-11
 TEL 03-3893-9792 FAX 03-3893-9792

御挨拶

全国的同窓会支部等の 結成を促す



同窓会長
小川 力洋

本年はソルトレイクで冬期オリンピック大会で世界中の注目を集めたものでしたが、四年前の長野での日本開催とは段違いに成績が上がらず、期待はずれに終わってしまいました。各選手はこれまでの四年間をそれなりに頑張ってきた。各選手はこれからの四年間をそれなりに頑張ってきた。各選手はこれからの四年間をそれなりに頑張ってきた。各選手はこれからの四年間をそれなりに頑張ってきた。

前回の10個のメダルは土壌が良かったからだろうか視聴率も下がったという。それに引き換え、韓国・中国の気迫には圧倒された。選手は四年後を目指して再出発だという。本人の限界を超えなくてはならない技法で残酷だが有効性を確かめたい。

さて我が同窓会においては何をどこまで、どう為さなければならぬかを課題にはしているのだが、マンネリ化している状態ではないかと感じています。

- 一、関心はあるが地域的(遠方等)で参加が無理だ
- 二、会報で多少ではあるが、学校・同窓生の動きを知らされるから満足
- 三、クラス会・同期会であれば親近感がある

- 四、同窓会では仲間意識を感じないからどうでも良い
- 五、往時の先生方にはお逢いしたいが総会にも参加が少な
- 六、諸先生方の消息を知らせてほしい

以上考えられる点をあげてみたものですが、母校愛に燃える皆様が、東京まで足を運ばさず皆様の地元近くで会合を持たせたら、いかがなものか?とのご提案で、例えば北海道・東北・北陸・関西・中国・四国・九州・沖縄等とブロック(支部)制を結成して、活性化へつなげられないかと考えているものです。

各地域で連絡長(仮称支部長)を引き受けて下さる方のお申し出をお待ちしたいと考えております。将来的には活動運営金(補助制)制度をも検討して行き、全国的な展開が望ましいと大きな希望を抱いておりますので、ご協力をお願い申し上げます。

同窓会がさらなる

サポートを



校長
北村 正生

同窓会会員の皆さまにおかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

小川会長を始め会員の皆さまには、母校の教育活動に對しまして、深いご理解とあたたかいご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

お陰様で、ここ数年間は受験生より一定の評価をいただき、教職員においても保護者、生徒のニーズに應えるよう日々努力を重ねております。特に進路指導におきましては、今の社会情勢

に合わせていくことが第一ですので、一学年からの意識付けに始まり、講演会、説明会など様々な早期の取り組みを実施しており、その効果も見られます。

高校入試については、学区制度の廃止(十五年度から)や、今後検討されまじいゆる絶対評価の導入に伴う調査書の扱い、あるいは男女別定員制の在り方、推薦枠の拡大など入学者選抜における改革の流れの中で、本校がどうあるべきか将来像を真剣に検討して行く必要に迫られることとなります。ますます生徒の実態に合った教育内容が求められる時代になります。

また、皆さまご承知のとおり四月から、学校週五日制が完全実施され、土日曜が休業日となります。これに伴って、授業時間の確保への配慮とともに、部活動での校舎等の有効活用が検討課題になっております。

開かれた学校を目指して、十三年度から全都立高校に学校運営連絡協議会が開催されており、小川同窓会長さんと同窓会会員の双方に委員として参加いただき、学校運営に資する様々なご意見をいただいております。

私は本年三月をもちまして、定年退職いたしました。本校に着任以来、小川会長をはじめ役員の方々の皆さまには五年間にわたる大変お世話になりました。お陰様で大過なく過ごすことが出来ました。皆様のご理解とご支援の賜物でございます。この場をお借りして御礼を申し上げます。

おわりに、母校に対するさらなるサポートをお願いし、また同窓会の益々のご発展を祈念いたしまして挨拶に代えさせていただきます。

学校だより



教頭
清水ゆかり

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。入学選抜における学区の撤廃、進学重点校の

指定など都立高校改革が進展し、本校にもその波がひたひたと押し寄せているのを感じます。この一年の動きをご紹介します。

① 授業公開 昨年六月二十二日に本校保護者を対象に授業公開を行い、約五十名の方に参加していただきました。小・中学校では、比較的頻繁に授業参観・学校公開が行われていますが、本校では初めての試みです。

都立高校では、十三年度から授業公開日あるいは授業公開週間を設けるとともに、ご希望があればいつでも授業を公開する通年の授業公開を実施しています。同窓会の皆様もお近くにお出かけの際は、ぜひお立ち寄りください。

② 学校運営連絡協議会と学校評価 地域の方々を構成員とする学校運営連絡協議会を六月、十一月、三月に開催しました。同窓会からは、三名の方に外部委員として協議会に出席していただき、活発にご意見を出していただきました。十二月には本校保護者・生徒に学校生活・学校教育についてアンケート形式で評価をしていただきました。この結果については、何らかの形で皆様に公開していく予定です。

③ 公開講座と学校開放 「パソコン基礎講座」とIT講習を十月から十一月にかけて実施し、主に文京区民を中心に四十名の方が受講しました。パソコン関連講座は今年度も実施する予定です。

また、体育施設開放については、テニスコートを文京区の登録団体に第二・第四土曜日の夜間に開放してきましたが、学校五日制の完全実施に伴って拡大する方向で検討中です。

④ 沖縄修学旅行 一月九日から三泊四日で第二学年沖縄修学旅行が実施され、大きな成果を得て無事終了しました。九月に発生した米国同時多発テロの影響により、沖縄修学旅行の中止や行き先変更をすす高校も多くありましたが、当初より一月に設定していたので、予定通り実施するよう準備を進めてきました。沖縄の人からは大歓迎され、稱頌知事からも感謝状をいただきました。本日より修学旅行となりました。

⑤ 入学選抜状況 一月三十一日に推薦入試、二月二十一日に一般入試が行われました。推薦では男子3・92倍、女子5・36倍、一般では男子1・48倍、女子1・96倍で昨年比で倍率は低くなりましたが、都立高校全体の平均1・42倍に比べて高い方でした。

活動だより

塩原温泉探訪の同窓会役員一泊旅行



S 48年卒 佐々木郁子 (旧姓 遠野)

平成13年5月12日(土)〜13日(日)と一泊二日旅行に出かけた。参加したのは、小川会長を始めとして三田、桜井、杉浦、梅田、稲葉、笹山、佐々木の七人、少人数なので無料送迎のバスを頼む関係から、すえひろ会という団体に便乗する形で出発した。すえひろ会とは小川会長が中学校のPTA会長をしていた時の人脈からなる団体で、ほかに高校のPTA会長をしていた時の仲間達も合流していた。つまりはみんな小川会長につながる人脈で成り立つ団体旅行だったのだが、これが実に廉価で楽しい旅行だった。



13年5月12日 塩原鍾乳洞 源三窟前にて

廉価というのは、「一泊五食一万円!」というキャッチフレーズからも伺えるが、だからといって決してそれなりの内容という訳ではないところがみそだ。

新築ホテルなので部屋も清潔で、食事もかなり焼き肉ありとなかなか豪華でよろしい。露天風呂のある温泉も結構で、宿泊にお金がかからない分、おみやげも買えるなというこづいめだ。だが楽しかった理由はそれだけではない。普段ゆつくり話せない人達と時間を気にせず話が出来たこと、またそれまで全く知らなかった素敵な人達と知り合えたことが何よりうれしく。

みんなでわいわい賑やかにボタンの花咲く寺の境内を散策したり、新緑の山頂でおにぎりをほおばったり、おどろおどろしい鍾乳洞や化石博物館を見学したりと盛りだくさんな楽しみ方で、帰りのバスを待つ時間には、旅回りの劇団のお芝居で泣かされたりなどとして、これがたつた一泊のことなのかと驚くばかりの内容だ。

これはひとえに小川会長の疲れを知らない活躍と、案内役の吉備先生や介添役の稲葉さんのご助力によるもので、この紙面を借りて御礼申し上げます(但し入場料は自弁)。

今回参加できなかった人、次回ぜひご一緒しましょう! おすすめです!!

第9期生同期会開催報告

S 32年卒 佐藤 二元是

卒業45年目の、そして初めての同期会が開催され、昨年12月1日(土)に会場である、霞ヶ関三井クラブにて第9期生(昭和32年卒業)の60名が集った。B組の担任教諭であった新島若夫先生にもご出席を頂いた。

会は型通りに、記念写真の撮影、奥村会長等による挨拶の順に始まった。続く新島先生のスピーチは活力が満ち、ご壮健であられることが強く印象づけられた。そのお姿に自分の未来を重ねた者もあったに違いない。卒業以来の45年の間に何度かの集まりを持ったクラスもあったと聞くが、同期会としては初回でもあり、会場のあちこちにできた幾つもの輪が懐かしい話題に花を咲かせ、旧交を温めていた。また、ストロボが幾度も光ったが、既に還暦を迎えた同期



A・F組



C・D組



B・E組

13年12月1日 於霞ヶ関三井クラブ

生が最新のデジタルカメラを簡単に操作する様子は、「老いとは未だ未だ無縁だ。」と訴えているようにも見えた。会の中程には、特賞が「折られたみ自転車」であるビンゴ・ゲームも催され大いに盛り上がった。「司会が拙い」と、本来の進行係を押し退けて、その役に納まってしまう複数の猛者も現れた。

多数が参加した2次会をも含め、共有した時間は瞬く間に過去のものとなって、夕刻には散会の時を迎えた。別れを俄かには容認できない級友の会が待っていて、夜の都心に消えたグループもあったようである。

本同期会の発端は、昨年夏、奥村君を中心とする当時のバスケットボール部員の数名が、地方に住む同じ部員を訪ねた際に話題となったこととあった。その後、クラス毎に少なくとも1名との案は叶わなかったものの、奥村君等が持つ連絡網により8名の協力者が揃い、世話人会が編成された。同期生への案内については、卒

業以来45年を経て住所不明の方々も多く、連絡先の確定は手探りだったが、同窓会会員名簿(一九九七年発行)や他同期生の調査協力が大いに役立った。名簿によれば、同期生の総数は270名(6クラス)、住所の記載は119名であった。しかし、調査の結果を加え、5名の担任教諭(他の1名はご逝去)及び15名の同期生に案内を郵送することができた(内7名については転居先不明等により返送された)。なお、確認された物故者は14名であったが、実際にはより多数と推定される。同期生の諸氏と共に、教諭を含む物故の皆様のご冥福をお祈りしたい。

終わりに、貴重な紙面を拝借することになるが、世話人の氏名を書きとめる。
奥村正明(会長・B組)、内山 稔(A組)、小西(城) 圭子(D組)、櫻井弘清(D組)、佐藤元是(D組)、藤沢(竹内) 寿美子(D組)、古門(小峰) 寿子(E組)、福田敏之(F組)

愛のキューピットを語り合おう



S41年卒 長谷川三枝子 (旧姓 原)

同窓会に数名が参加したのが10年前。2、3回と出席者が増えて、同期会の発足へ。昨年、3回目の同期会が盛大に開催されました。今年になって、旧2Bのクラス会を開きたいという話が出てきました。

高校生活の楽しい思い出、修学旅行に行った時のクラスメートです。例年は2年生の秋に行くと修学旅行が、その年は東京オリンピックのため、3年生の春に2年生の組編成で行きました。その時のしおりを保管していた方のおかげで名簿の作成ができました。

11月17日 池袋の「にほんばし亭」に先生と15名があつまりました。担任の斉藤先生はこの修学旅行に付き添って下さった都職員の方と結婚されました。私達の中に愛のキューピットがいたのかもしれない。なれそめからの話を次々と皆が質問攻めで先生と生徒の関係は逆転してしまいました。



13年11月17日 於池袋にほんばし亭

熟年と呼ばれる歳になっている私達ですがその時はすっかり高校生に戻って、修学旅行、授業、部活、文化祭、話は尽きません。お店の方に時間の延長をお願いして話はまだまだ続きました。話題は何時の間に仕事の話、子育て、孫の話になっていました。先生と次回は是非奥様とご一緒にお会いするのを楽しみにしていますとお約束して1次会はお開きになりました。

2次会ではカラオケへ。もちろん1曲目は「修学旅行」です。そして青春謳歌を時間の許す限り歌いました。胸がキューンと熱くなる歌詞がいつばいでした。また皆が元気に思い出を持ち寄り、新しい思い出のページを増やしていけるといいですね。

五十歳の同期会 三先生と共に



S45年卒 幹事 粕谷 卓志

「変わってないねえ」「元気だった？」。長い時間の溝は数分で埋まってしまったようでした。二〇〇一年二月八日、一九七〇年(昭和45



13年12月8日 於スクワール麹町

年)卒業の同期会が東京・四ツ谷で開かれました。同期会自体は数年ぶりですが、卒業以来32年ぶりに会う仲間もいて、参加した50人の同期生たちはたちまちのうちに高校時代に「タイムスリップ」し、思い出話を花を咲かせました。

70年卒業生は7組で350人。大半が一九五一年、52年生まれです。前回の同期会で「21世紀、自分たちが50歳になったらまた集まろう」と約束していました。忙しさにかまけて幹事団がばたばたしている間に時間だけが過ぎてしまい、年末になってようやく「約束」を果たすことができました。

会には、各クラスの担任だった小野正喜、江川茂彦、米谷貞子3先生も来てくださいました。先生方に会った瞬間にわかるほどお変わりなく、みなさんお元気でした。

先生方はごあいさつをいただいたあと、3年次のクラスごとに近況報告。卒業後32年経ち年輪を重ねてみない顔になっています。様々な人生を歩んできました。中にはサラリーマンから農業に転職した仲間もあり、一人一人が報告するたびに笑顔が広がっていました。

午後5時からの1次会2時間あまりはあつという間にすぎ、ほぼ全員が2次会へ。さらに3次会へと時間を忘れて再会を喜び、深夜まで盛り上がり上がっていました。

思い出・想い出

仮装大会やら出張応援へと挑戦



S31年卒 川端 春生 (旧姓 三橋)

体育祭は華やかだった。あの頃、昭和二十八、二十九年のことだったと思う。運動会や体育大会でなく、体育祭と記憶している。

当時、グラウンドと校舎がある敷地は、60cmぐらいの段差があった。グラウンドのほうが低かった。何しろ狭い敷地なので、直線が極端に少ない円に近いトラックが描かれていた。

一周百五十米位の距離だろうか。思い切り走ると速くへ飛ばされそうになった。

中学では陸上競技部に所属し、飛んだり走ったりすることが大好きだった私は、体育祭が楽しみだった。

不思議なことに、この体育祭の応援団に誘われ入団してしまっただ。今、やよい会・向丘高校の同窓会会長として活躍している小川力洋さんと一緒になって応援団に入り、随分と練習をし、みんなの前で恥ずかしくもない様子で拍子を取って応援させていたのである。

種目のなかに仮装行列があつて、上級生の仮装がものすごく色っぽい感じで、高校の体育祭は、実に魅力的だと印象的だった。その時、小川さんと二人で河童の姿になって踊ったり走ったりして応援をしたものだった。

応援団は、先輩がどこからか羽織袴の衣装を借りてきて、「これを着て、本格的に応援の練習をやる。体育祭を盛り上げるためにしっかりとやってほしい、期待する。」と訓示をたれ、三三七拍子の練習をはじめた。

長い鉢巻を締め、羽織袴に袴がけ、朴歯をはいて、手に扇子をもつて、「一拍子」「二拍子」「三三七拍子」「乱拍子」という具合に手振り身振りよろしく応援開始。大好評を博した。気をよくした応援団長は、ある別の高校へ出張応援をしたのである。同じ学区とはいえ、他校の生徒たちの前で応援するのは、さすがに驚いた。その生徒たちも私たちの応援に一生懸命に応えてくれた。こうして感動的で楽しい体育祭は終わった。

最初は恥ずかしかったけれど、みんなと一体になって体育祭を楽しむという成就感にあふれた取り組みだった気がする。充実した時間を共有すること、仲間といっしょに行動し、楽しみや喜びを共有すること、そんなことがあちこちにあった時代だった。

今、若くはないけれど、なんでもかんでも

ともかく挑戦してみたいと思う。あれやこれや結果を考えるのではなく行動してみたい。この情報がいっぱいの時代、バランス感覚をもって行動したいものだ。こんなことが考えられるのは、高校時代のいろいろな出来事が支えになっているからだと思う。

さて、四月から元亨学校週五日制が始まる。家庭教育の重要性が強く求められ、家庭での娘や親子の会話などが話題になっている。さらに、地域との連携や地域の教育力の回復などが論じられている。子どもの頃、どこにでもいた頑固親父や筋向いの意地悪ばあさんなどは遠い昔の話だったのだろうか。

そういうことも大切だが、学校にいる時間が短くなり、先生や仲間との触れ合いや行事、新しい出会いなど、学校でしか得られない体験や感動が少なくなることが気にかかる。これが単なる杞憂であって欲しいと願ってやまない。

フォークソングクラブから

「ゴスベルを歌う牧師へ」

S 52年卒 吉松 純

(MFLS 第七代部長)

僕が高校生だった70年代中頃、都立高校はまだ学区制で枠付けされていた。92群の向丘は第2学区と4学区に属す不思議な学校で2学区では一番下に位置したらしいが、4学区では真ん中だった。受験競争渦中にあつては都立の真ん中は「特に可も無く不可も無く」「鈍くもないけど利口でもない」と生徒自らも諦めムードにも似た思いを抱いていた。熱く教鞭を振った先生方には失礼だが、確かに僕は半端だった。その冷めていた僕たちが燃えた瞬間。それがクラブの時間、空間だった。

現在でこそ向丘(M)フォークソング(F)ラバーズ(L)ソサエティー(S)と自称しているが、当時は「フォークソング・クラブ」サウンドから言うところ「ふおーくそんぐ」の方が相応しい。60年代、70年代初期のアメリカン・フォークソングの影響をもちに受け、みんなで歌う「しんぐアウト」(Sing Out)、そしてソロやバンドの練習。合唱部とかコーラス部と名が付くと赤面するのにも、何故か「しんぐアウト」と言うのと恥ずかしくも無く全員で歌い、おまけに振りまで付けていた。新入生歓迎会、向陵祭、そしてクリスマス・コンサートを目標に僕達は歌いまくった。当時、先輩、同輩、後輩の中には、頻繁に授業をふけて、クラブにだけ顔を出さず不届きな者も少なくなかったが、一体何がそこまで僕達を駆り立てたのだろうか。他の部員達はどうか考えていたのだろうか。同窓会の折に訊いてみたいのだが……僕個人の中では、その答えは明確にあった。

当時も今も、ここ50年来、変わらない受験競争、一流大学に入り、不況が恒久化してきた90年代後半から崩れたとは言え一流企業に半永久就職し、出世を望み、財を成し、子どもに囲まれて夫婦仲良くマイ・ホーム。そしてハイソな生活とあまりにもお定まりのコースに、中学時から疑問を抱いていた僕は、向丘に入学すると同時に、美術研究所に通い始め、学校では程々に過(こ)していた。が、元来、歌う事、目立つ事が好きだった性分から、また何か絵と同じように自分の思い、主張を訴えることができるかもしれないと考え入部した。先輩から「もう一人男がいる」と聴かされ、半ば騙されて入部してしまった。ところが一緒に入ったはずの奴(今では数少ない親友の一人だが)はあまり顔を出さず、また当時、純情で硬派だった僕は女の子達がしんぐアウトをしているところに入っていくことが

できなかった。その結果、いつもしやがみ込んで練習風景を眺めていることになった。その時のモサツとした様子、やや大きな目で彼女達を眺めている雰囲気「牛に似ている」と誰かが口走った瞬間、僕は後にも先にもこのクラブの中でのみ「うし」という似合わないニックネームを頂戴した。

それはさて置き、当時10名以上はいたと思われる新入部員の女子たちは妙に明るく、楽しく、列をなして、しんぐアウトに没頭していた。その顔は不思議な輝きに満ち、笑顔があまりにもポジティブで、まだ黄色い歌声ではあったが、「ハテ、幸せとはこういうものではないのだろうか」と錯覚してしまうほどであった。その内に先輩から「ギターを弾いてみる」とか「入って歌いなさい」と声を掛けられ、アイス・ブレイクした僕は、何時の間にかその幸せ一杯の群れに属していた。

ところが、いざ実際に歌ってみるとこれが結構大変。先輩から声の出し方、歌い方を矯正されたり、指先が黒ずみ、感覚が麻痺するほどギターを弾かされ、見るとやるとでは大違いの練習であった。また、たとえ同じ92群の生徒とはいえ、それまで育った環境も思いも違う者達が集まっているのだから、一つにまとまらない。そんな中、先輩達が気を利かせてくれて、練習後、今は懐かしの喫茶店「パイオランド」によく連れて行ってくれたものだった。パイオランドでも話題の中心はクラブの事はかり。先輩は勿論、同期も自分の好きなミュージシャンが既にいて、僕は感心しながら、自分の音楽を模索していた。吉田拓郎、かぐや姫、チューリップ、五つの赤い風船、井上陽水、オフ・コース等を経て僕はアメリカン・フォーク、やがてはカントリーへと流れて行った。因みに現在でこそ滞米生活22年と、アメリカ暮らしが日本にいた時より長くなってしまい、英語の中で生活し仕

事をしてるが、当時は、カタカナ英語で歌い、いっぱしのシンガーになった積もりでいたからお恥ずかしい。

卒業後、美術を志していた僕は見事に芸大にすべり、それならいっその事と渡米し、ニューヨークの美大に入ったが、当時、僕の友人達の一部は僕がアメリカにカントリー・ミュージックを学びに行くと思ってくれていたのだから、いかに、僕が向丘でフォークにのめり込んでいたかお分かり頂けるだろう。恐らくそれは他の誰もが同じだったのではないかと思う。現在も音楽業界に関わっている者も若干いるが、卒業後、多くの者は全く音楽と関係の無い堅気の仕事をしている。しかしあの頃の情熱、何か一つのことを打ち込めたという達成感が今でもどこか体の隅に残っており、日々の生活の中で僕達を支えてくれているように思える。

上述のごとく、僕は日本から離れて久しいので、その後の先輩、同輩、後輩の状況などを殆ど知らない。だからこそ、尚更、ここ2年間にMFLSのオフィシャル・サイトができたことを誰よりも喜んでる。昨年の同窓会、僕は参加こそできなかったが、あの頃歌っていた曲の歌詞カードを仲間へ送った。そう僕は、このアメリカ・ニュージャージーの地で、日本にいる仲間達がもう紛失していた、20数年前のフォークソング・クラブの歌詞カードを今でも大切に持つており、歌っている。ただ一つ不思議なのは、英語はかなり上達したはずなのに、ましてや今はアメリカ人の教会の牧師として英語で説教し、讃美をし、ゴスベルを歌っているのに、あの頃の英語の曲を歌うと、カタカナ英語のへたくそな発音に戻ってしまうのだ。いかにクラブの存在が大きかった事か……。

米国ニュージャージー在住

ひるば

「家内安全」湯島界限詣で



S 31年卒
三田 昌男

今年の正月は一月二日に湯島天神へ初詣でをしました。参拝人は長い列を作つて並んでいました。誰もが思う様に今年も家内安全、健康である事、良い年であります様にとお祈りしました。湯島天神は学問の神様であるので、若い学生が多く、絵馬に受験校の合格祈願をしておりました。庭の白梅もちらほら咲き初め、二月には満開になり文京梅まつりが行われます。帰り道、お茶の水駅へ行く途中、近くに神田明神があります。ここも多くの参拝人で混雑してりました。

今年十月に二回目の定年をむかえます。現在失業率が六%と不況の時代で、もう再就職は出来な気がします。これからの、毎日が日曜日。をいかに有意義に時間を使うか考えさせられます。今まで毎日の通勤で一万歩以上歩いていました。それがなくなり、足が老化しない様毎日歩く習慣を作り健康保持に気をつけたいと思っております。久しぶりに同期会を開きたいですね。何かよいプランがありましたら御連絡下さい。その時は多数の方の出席をお願い致します。

絵手紙一年生



S 41年卒
尾道 郁代
(旧姓 大橋)

パソコン、メール、携帯電話等々老若男女国中が大はやりです。そんな時代なのに私は昨年の春から絵手紙をはじめました。絵は学生時代から苦手で下手でした。しかし、絵手紙の先生は「下手でいい。下手がいい」とおっしゃって下さるので気がらくです。筆のテクニクで描くのではなく、あくまで筆の一番上の方を指でつまみ線をきざむようにしてハガキ一ぱいに描くのです。描いている時は、まず、描く物を観察しそのことにだけ集中します。それがなんともいえない良い時間なのです。先輩達はどう描いているか気になります。自分なりに良いと自分言いつけて描いています。

くです。筆のテクニクで描くのではなく、あくまで筆の一番上の方を指でつまみ線をきざむようにしてハガキ一ぱいに描くのです。描いている時は、まず、描く物を観察しそのことにだけ集中します。それがなんともいえない良い時間なのです。先輩達はどう描いているか気になります。自分なりに良いと自分言いつけて描いています。



がおかの流れと

卒業50周年会開催へ



S 27年卒
五條 彰久

紅顔の美少年、美少女であった向丘第4期生は、卒業しては50年が過ぎ、「介護保険被保険者証」を手にするお年頃になってしまいました。

「青春の感激の 集まるころ わが母校」を後にしての半世紀。山あり谷ありの永い年月でしたが、経つてしまつたと正に「光陰矢の如し」です。その間、多くの同期の友を病で失い、いま、病に伏している友を思う時、人生の無常を感じずにはいられません。

「自由の空をかけりゆく... 遠逝かなりわが前に...」と、

向丘校歌二番で歌った、あの未来への希望は、年齢とともに衰えてきましたが、人生九十歳、百歳の時代を迎え、「老いてますます壮なるべし」といきたいものです。

そこで今回卒業50周年を記念して、同期会最後の「卒業50周年記念同期会」を開催することになりました。思えばわれわれは、今では当たり前前の男女共学の第一期生であり、その礎を築いた歴史的体験者

でありました。そこで当時の生徒会委員長であった小林弘道幹事のメッセージをご紹介します。

「終戦直後に教育制度が改められ、6・3・3制のもと新制高校が発足して、聞くこと、見ることの新しいさととまどつたものです。なかでも私たちが初めて体験した男女共学制もその一つです。長い間閉ざされてきた男女間の厚い壁に対して、男女同権を意識し、平等の立場で真剣に議論を重ねて得た「人の道」の尊さは、何にも換えがたい財産だと思っています。「少年老い易く学成り難し」と後悔を味わいながら、だれでもが一度は迎える人生の回顧橋で、タラレバ人生を経験しましたが、この50周年を機に、皆さんとお会いし、それぞれの体験・考え方に耳を傾け、残された人生を前向きに生きる参考にさせて頂ければ幸いです。」

第4期同期会は、毎回参加者集めに幹事は苦労しています。その大きなネットワークのひとつが、向丘高校の発祥に起因しています。都立向丘高校は、昭和22年9月22日、都立向丘女学校と都立本郷女子商業学校が統合して発足しています。

そのため、出身学校間に派閥らしきものが存在し、それが卒業後まで尾を引いていると聞いています。昭和25年から現在の向丘高校の名称になりましたが、それまでの約3年間は、過渡期の対策として向丘本郷高校とわかれたようです。しかし、50年経つてまでも確執をもち続けることはお互いに不幸です。人は、憎悪や怨念をエネルギーにして幸せにはなれません。「同じ釜の飯を食つた同士」という、気楽な気持ちでご参加頂きたいと思っております。

もうひとつのネットワークは、年齢とともに「同期会に無関心」になつていく方が多くなつたということです。三島由紀夫は実在的確定ことを言っています。「忘却の早さと、何ごとも重大視しない情感の浅さこそ、人間の最初の老いの兆しだ」と。忘れやすく、感じにくくなつたら要注意だと警告しています。同期会にも興味と関心を持ち、好奇心を失わないことが自己の老化防止につながることを意味しています。

私たちが歩んできた過去を振り返ってみますと、なんとたくさんのすばらしい一生に一度の出会いがあつたことでしょうか。向丘高校の舞台で繰り広げられた青春の思い出は、燦然と輝いて一生に一度の出会いだったのです。この出会いを粗末してはなりません。多感な時代の思い出は、同期生の共有の財産です。

あの躍動的な学校生活は、一生脳裏から離れません。浦野有久枝(旧姓・加藤)幹事はこう

言っています。「白の体操着、黒のチョウチンブルマー。テニスコートを駆け回り回つていた私。あの頃の皆さんにぜひお会いしたい」

また津雲貞子(旧姓・松田)幹事は次のように同期生に呼びかけています。「物事の本質を探り考える青春時代を共有した友人は、人生の宝です。その「宝」を大切に思い、更に高校卒業50周年を迎えられる。喜びを共感しましょう！」

その思い出を笑顔で語り合うことは、脳の活性化につながるのです。中国には、「一日快活なるは千年にあたる」という言葉があります。同期会一日を愉快に過ごせば、千年の楽しみにも匹敵するということです。どんな境遇にあろうとも、笑いを忘れなければ道は必ず開けていきます。笑いは人生のエネルギーであり、健康法なのです。同期会の存在意義は、ここにポイントがあると思います。

向丘の思い出は、五十年の風雪に清く洗われ、ほど良く熟成しわれわれを優しく包み、脳を活性化してくれること間違いありません。今後、喜寿、米寿、白寿を健康で迎えたい方は、是非この機会にご参加ください。

フィナーレを高橋清子幹事の言葉でご案内を閉めさせていただきます。

「今年は、あの雪もよいの寒い朝、昭和27年3月7日東洋大学講堂において行われた卒業式からはや50年と相成ります。昭和の激動時代をまさに生き抜き、様々な人生模様が繰り広げられたことでしょう。ここに卒業50周年を寿ぐ会を催し、今日まで生かされ生きていくことへの感謝とその喜びを皆様と共に、大いに語り合い楽しいひとときを過ごしたく存じます。同期の皆様お誘い合わせの上、ご出席くださいます。」

卒業50周年同期会案内

記

- 1. 日時：平成14年5月12日(日) 午後1時～3時 30分(受付12時30分)
- 1. 会場：明治記念館・東館1階「千歳」
- 1. 会費：1万円(日本料理・飲み物・通信費込み)
- 1. 連絡先：五條彰久

(電話&fax 03-3742-19027)
〒144-0034 東京都六区西横谷4-2-3

平成十三年度中にお振込み等頂いた方々です。有効に活用させていただきます。尚、漏れがありましたらご連絡下さい。

Table with 4 columns: 会費寄付者名一覽, 会費納入者名一覽, 野尻 孝子 (S40卒), 櫻本 節子 (S40卒), 清水 弘子 (S40卒), 木下 玲子 (S60卒), etc.



長田英方顧問を囲む会に来たれ!! (演劇部OB会) S31年卒 山本 越子 (旧姓 福永)

現在、母校に演劇部が存在するかどうかは定かではない。顧問の転勤により時々消滅するらしいので正確な年譜などはわからない。我がOBたちもさしたる伝統を残すこともなく卒業したのだからあまりえらそうなどとはいえないが、OB会は健在である。

昨年の第5回には30名になる盛況となり、いろいろ情報を集めるうち演劇を職業にしている後輩の存在がわかった。劇団「文学座」の演出家であったり、松竹パフォーマンスで企画制作をしていたり、である。彼らのことは、またあらためてじっくり紹介させていただきます。

遺失俳句(沙羅の会)俳句会 指導 桧 紀代 月刊俳誌「遠矢」主宰 佐藤(安藤)玲子S31年卒 俳人協会幹事 NHK学園講師

一泊懇親旅行会のご案内 日程 平成14年7月13日(土)~14日(日) 行き先 草津温泉(群馬県) ホテルおおるり 集合場所 JR田沼駅前(池袋寄口) 午前7時

【事業報告】

平成12年4月1日～平成13年3月31日

I 役員会(幹事会)

平成12年4月16日(日)

総会準備会(新卒生幹事との顔合わせ会とし、呼びかけをしましたが、残念ながら参加者は皆無でした)

・北区東田端出張所会議室

平成12年8月11日(金)

- 1、総会時写真の整理郵送作業
2、ホームカミングの打ち合わせ
3、次年度のアトラクションの件

・北区東田端出張所会議室

平成12年12月21日(木)

- 1、総会の打ち合わせ
2、やよい11号発行の件
3、終了後年末納会を行う

・北区東田端出張所会議室

平成13年1月30日(火)

企画会議

・北区東田端出張所会議室

II 総会記念マンドリンコンサート開催

・母校6階ホール

平成12年4月29日(土)みどりの日

出演 飛鳥山マンドリンクラブ25名

会員、一般を含め150余名がナツメロその他、1時間ほどの演奏を楽しみました。

切り絵作家「稲葉祐吉氏(同窓生)」個展 同時開催

「チンチン電車の通る街」シリーズ原画と干支シリーズを出版、ご協力いただきました。

III 総会 懇親会

・母校6階ホール

平成12年4月29日(土)みどりの日

参加者 65名

特に会津一先生ほか5名の先生方

のご参加をいただき、話が弾みました。参加者が少ないのは日程の為ではないか、との意見が出され、試行として、次年度は4月22日(日)開催に決定しました。

IV 研究活動

① 平成12年9月24日(日)

ホームカミング会

母校B棟4F視聴覚教室

近年は向陵祭と同時開催。母校の現況、活動などの見学、懇談の場として。今回は稲葉祐吉氏の協力を得て「喜多方蔵の街」切り絵展開催。

実演も加わり訪問者に喜ばれました。絵葉書の売上代金を現PTAにご寄付いただきました。

② 平成12年8月17日(木)

明大ビッグサウンドソサエティオーケストラに出演依頼書送付

③ 平成13年1月30日(日)

やよい11号企画会議

・北区東田端出張所会議室

向丘フォークソングラバーズソサエティOBO会世話人関本知恵氏参加。懇親会で発表の場を持ちたいとの提案あり、発展的な活動として出演依頼しました。

④ 平成12年2月15日(木)

やよい編集会議

・北区東田端出張所会議室

⑤ 平成13年2月18日(日)

やよい編集会議

・北区東田端出張所会議室

⑥ 平成13年3月3日(土)

「明大ビッグサウンド」演奏会

・目黒公会堂

小川会長、佐々木書記が実踏鑑賞。総会記念演奏会への演奏に期待を持ちました。

⑦ 平成13年3月14日(水)

初校会

・小川事務所

⑧ 平成13年3月18日(日)

再校会

・小川事務所

⑨ 平成13年4月2日(月)

住所判明会員、旧教諭等に業者依頼にて11,103部発送 在校生及び現教職員に800部配布

V 渉外関係

平成12年4月11日(火)

母校入学式に小川会長列席

・母校体育館

平成12年7月1日(土)

同期会(41年卒)に招かれ会長参加

・トリアノン(サンシャイン58階)

平成12年8月22日(水)

現PTA役員会を会長訪問、顔合わせ

・PTA集会室

平成13年3月7日(水)

母校卒業式

・母校体育館

小川会長出席。来賓代表として祝辞を述べました。

VI 振興助成

同期会(47年卒)代表幹事谷嶋二三男氏の報告288名に対し通信費を助成

同期会(41年卒)代表幹事都留みどり氏の報告280名に対し通信費を助成

クラス会(47年卒)幹事川合美津子氏の報告40名に対し通信費を助成

VII 慶弔関係

平成12年12月25日(月)

荒川雅司(会計)氏を小川会長が見舞いました。

平成13年1月13日(土)

田中正明(相談役)氏著書出版祝賀会に小川会長が招かれ祝辞を述べました。

・アルカディア市谷

■平成12年度会計報告及び平成13年度予算案■

都立向丘高等学校同窓会 平成13年3月31日現在

Table with 3 columns: Department, 12年度決算金額, 13年度予算案金額. Rows include Income (入金の部) and Expenses (支出の部) with various sub-categories like membership fees, publications, and research activities.

上記の通り収支報告申し上げます。

平成13年4月21日

同窓会会長 小川 力洋 長谷川三枝子

会計 小川 雅司

同窓会 荒川 尾道

監査の結果誤りの無いことを認めます。

平成13年4月13日

監査 石山彼早子 寺村 光司

訃報 吉田 久保田 生田目節夫 長沢杜江 S 29年 平成13年8月21日(享年79歳) 渡辺春江 S 43年 平成12年11月14日(享年60歳) 高木理恵子 S 45年 平成12年8月16日(享年51歳)

昭和57年卒業(第34期) 同期会案内 日時: 2002年5月19日(日) p.m. 4:00~6:30 場所: 池袋立教通り リビエライ(旧白雲閣) 西池袋5-9-5 Tel: 03-3981-3231 会費: 6,000円(一次会) *二次会も企画しています! HP: http://www.ichimura-pub.com/gaoka1982/

あとがき 文字を大きく、というご要望もあり、A4判にして、読み易く、と進めて参りましたが、頂きました原稿を割りつけて見ましたところ、余裕がなくなつてしまいました。年に一度の発行ではありませんが、方法等調整努力いたしますが、今後とも多方面からのご寄稿(千文字程度と顔写真一枚・トリタテ・マイレター)をお待ちしております。 一六四三五名の卒業生中(除物故者)住所判明の国内全会員に送付を目標としております。未届者は小川会長長宛にお知らせ下さい。 尚、会活動活性化に向け、ご提案と年会費等のお振込み方、ご協力をお願い申し上げます。(会報委員会)